

シモ、内二例ハ再發シ二回ト三回ノ反復注射ヲ要シタリ。

(二) 同上患者ノ血液(三例)、局所切片、腫脹淋巴腺液ヲ兒玉博士ニ托シ「スビロヘーテ」ノ検査ヲ行ヒシモ皆ナ陰性ナリキ。

(三) 余ノ祖母ヨリ傳聞スル處ニ依レバ祖父ハ三十五六歳ノ頃指ニ鼠咬ヲ受ケ年々反復シテ鼠咬症様疾病ヲ患ヘ遂ニ五十八歳ニテ同一ノ症狀ニテ死亡セリト云フ。

黑色表皮腫ノ一例

金澤醫科大學第一内科(主任山田教授)

中 瀬 眞 亮

患者。 A S 生。 五十歳。 男。 農兼漁。 診斷、黑色表皮腫、胃癌。

既往症。 遺傳的及血族的ニ特記スベキ疾患ナシ大正十二年一月頃ヨリ全身倦怠著明ナル羸瘦ヲ來シ、八月下旬ヨリ食思不進、食後胃部壓重、膨滿感ヲ來シ九月初旬ニ至リテ胃部ノ疼痛ヲモ發スルニ至リ當科ヲ訪ヒ即日入院治療ヲ受ク、皮膚異常ニツキ患者ニ尋問スルモ職業關係ニヨルモノトシテ毫ヲ意ニ介セズ從テ之レガ發病ノ月日及ビ初發部位ヲ明カニスルヲ得ズ。

現症。 皮膚ノ所見トシテ著明ナ變化ハ左右相對性ニ發生セル皮膚ノ著色異常、表皮ノ乳頭狀肥厚、角質増加、及多數ノ疣贅ノ發生等ニシテ色素増殖ハ乳頭乳量臍部腋窩、項頸部肛陰部ニシテ漆黑色―黑褐色ヲ呈ス表皮ノ肥厚及角質増殖ハ外界刺戟ノ強度ナル部位ニ一致シ項頸部、腋窩、肛陰部、臍部、薦骨部、肘部、膝蓋部、趾指背部ニ著明ニシテ鱗皮―鮫皮様ノ觀ヲ呈セリ。 粘膜ニアリテモ色素沈着ヲ認ム。

腹部ハ膨隆シ胃部ニ表面粗大ナル腫瘍ヲ觸知シ壓痛著シ。

胃液検査ニヨレバ總酸度ハ一〇遊離鹽酸ハ陰性、乳酸反應ハ陽性ナリ。

糞便検査上潜在性出血反應ハ強陽性ナリ。

血液像ニハ變化ナク、ワッセルマン氏反應陰性、及ビボテロー氏癌反應陽性ナリ。

レントゲン線徹照上ニ胃ノ小彎ニ一箇ノ陰影缺損ヲ證明セリ。

組織學的ニハ角質層ノ著明ノ肥厚増殖アリ有棘細胞層ハ肥厚シ上皮索及乳頭ハ延長肥大分岐シ乳頭部及乳頭下部ニ細胞浸潤アリ、多量ノ色素顆粒ハ主トシテ基礎細胞内ヲ充シ尙ホ下層有棘細胞内ニ及ブアリ。淋巴腺ニ於テ「メラニン色素顆粒」ヲ證明ス。胃癌ハ膠樣癌ナリ。

余ハ本患者ノ血糖量及植物神經ノ藥物學的検査ヲ行ヒリ、血糖量ハ〇・〇八〇%ニシテ生理的範圍ニアリ、「アドレナリン」過血糖及糖尿ハ來ラズ、「アトロピン」及ビ「ピロカルピン」反應ハ陽性ナリ。

本患者ハ本院第二外科ニ於テ泉博士ニヨリテ胃癌切除術ヲ行ハレ、術後四週間ニシテ欣然トシテ退院シ現今尙ホ職業ニ從事シツ、アリ。

胎兒及ビ初生兒ノ子宮ニ於ケル脂肪ノ檢索

金澤醫科大學產婦人科

玉 川 和

余ハ胎生六ヶ月ヨリ生後五日ノ初生兒ニ至ル迄種々ノ期間ノ子宮ニ就テ脂肪ノ檢索ヲ行ヒタリ。其ノ結果ニヨレバ。胎生六ヶ月ヨリ胎生九ヶ月ニ至ル各期間ノ胎兒子宮ニハ一般ニ脂肪ヲ證明セザレドモ只其中ノ「ヒスチオチーテン」ニハ脂肪ヲ證明スルモノナリ。且其ノ脂肪ハ中性脂肪ニシテ稀レニ「コレステリンエステル」ナルコトアリ。

六ヶ月胎兒子宮ノ「ヒスチオチーテン」ニハ只「ズダン」IIIニヨリテノミ弱黃色ニ染色セラレ他ノ脂肪染色法ニハ全然